

第 1 専門部会 基本目標・個別目標案

基本目標案

案 1 : 「世界に向けて未来を育む 暮らしと産業の調和するまち」

案 2 : 「まちの魅力と産業技術が輝く国際産業交流都市」

< 説明文 >

これまで築き上げてきた都市環境や産業技術を土台に、快適な暮らしと創造力あふれる産業とが同居する豊かな都市空間を形成し、未来に向けて輝き続けるまちをつくります。

また、羽田空港の再拡張・国際化や、豊かな水辺環境、高度技術の集積などのまちの魅力の向上によって、区内外から多数の来訪者が集まり、多彩な交流活動が行われる活力あるまちを実現します。

～ 第 5 回部会での議事より～

- ・ 人、わたしが大田区の中でどうしたいのかを示したい。「暮らしと産業が調和するまち 大田」という案がいい。人の活動には、日々の暮らしと、産業の 2 つであり、その 2 つを基本目標としたい。
- ・ まちと羽田と産業という要素を活かし、「世界に向けて未来を育む産業のまち」とした。「世界に向けて」は羽田空港を代弁。産業に関しては、黙っていたら衰退するという危機感があり、未来に向けて能動的活動が欠かせない。それを可能にするのは人の意思と行動。「産業のまち」は、ダイナミックで明るいイメージであり、繁栄する産業と豊かな経済力があって瀟洒な町が生まれる。
- ・ 基本目標には未来という字が必要。
- ・ キャッチフレーズはもっと具体性があった方がいい。資料の「まちの魅力と産業技術を誇る」は「輝く」とした方がいい。

個別目標案

まちづくり分野

案1：「安心・安全な暮らしを支え、賑わいあるまちをつくります」

案2：「大田の豊かさが織りなす 安全で活力に溢れたまちをつくります」

<説明文>

大田区の中心である大森、蒲田、そして羽田空港周辺については、隣接市区に負けない魅力に溢れた賑わいあるまちづくりを進めます。区内の各地域においては、住民、企業、行政などが一体となって、将来の地域のあり方について考え、実践していく新たなまちづくりに取り組みます。

防犯・防災対策に配慮し、高齢者・障がい者・外国人など誰でも安心して動き回ることができるまちにするなど、安全で快適な暮らしを支えるまちづくりを進めます。

水辺や緑など身近な自然環境と触れ合う場を守り育てるとともに、景観や東京全体の環境にも配慮したまちづくりを行います。さらに、アートをまちづくりに取り入れるなど、人々に潤いと活力を与える取り組みを進めます。

区内で暮らし働く人や、羽田空港へアクセスする人が快適に不自由なく移動することができるよう、交通環境の改善に努めます。そして、水と緑、ものづくりの集積、羽田空港の立地などを活かした集客・観光施策に取り組みます。

～第5回部会での議事より～

- ・ 水辺を活かすことが入っていた方がいいと思うので、「ウォーター・フロントを活用し、大田の豊かさが織り成すまちを実現します」とした。
- ・ まちづくりについて、皆さんが望んでいるのは安全・安心。安全・安心は当然のこととして、未来に向けてアートのまちづくりという言葉を入れたい。
- ・ アートなまち（まちづくり）という言葉は是非入れたい。
- ・ ウォーター・フロント、安全・安心、アートがキーワード。これらを融合した文案がつかれないか。
- ・ 一般の人は衣食住を満たすのでいっばいで、アートは衣食住を満たした人が関わることなのではないか。まず衣食住を満たすことありきではないか。

羽田・臨海部分野

案1：「首都空港『羽田』が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります」

案2：「羽田空港と貴重な水辺を活かし、人・もの・情報が集まり、発信されるまちになります」

< 説明文 >

首都の玄関口である羽田空港を大田区の誇れる財産として活用し、アジアをはじめとした諸外国との国際交流を一層進めます。空港用地外となる跡地については、区民の意向を踏まえ、地域と空港とが共生できる視点からの有効利用を推進します。また、空港機能を十分に活用した新しい産業との連携を進め、大田ブランドの発信拠点としての展開を進めます。

臨海部、多摩川・呑川等の水辺空間の利活用を促進し、区民の暮らしとともに、首都圏全体が潤うような空間整備を図ります。また、水辺を活かした舟運など水上交通についての検討を進めます。

大田区を訪れたり、区内で暮らしていたりする多様な文化的背景を持つ外国の人びとが、快適に過ごすことのできるまちづくりを進めます。

～ 第5回部会での議事より～

- ・ 地域特性として羽田空港があるので、個別目標を「首都空港『羽田』が国際化のトビラを開け、日本・大田を発信します」とした。
- ・ 「人と情報を受けとめる空港都市」は「未来を育むまち」のための手段であり、一体のものである。
- ・ 羽田空港という言葉は是非入れたい。
- ・ 羽田について、品川は空の玄関としている。大田区はどういう言葉を使うか。
- ・ 羽田・臨海は大田区のこれからの活力の源であり、個別目標で「羽田空港と臨海部を活かした」と、具体的な表現がいい。

産業分野

案1：「『世界のものづくり都市 大田』を地域で支え、大田ブランドを広めます」

案2：「地域に根づいた産業が世界をリードする『ものづくり創造都市』として羽ばたきます」

<説明文>

ものづくりにおける高度な技術・技能を有する企業が集まるという地域特性を維持し、さらに発展していくため、人材育成や新たなビジネス創造に向けた仲介・支援などに取り組みます。また、国際化する羽田空港の立地を活かして、ものづくり創造都市としての大田ブランドを世界へと発信します。

高齢化社会を迎える中、身近な地域での快適な暮らしを支える商店街などの商業機能の活性化を図ります。区内外の人びとが集まる地区においては、競争力のある商業拠点機能整備を進めます。

また、暮らしと産業とが身近に接する職住一体のまちとして、ものづくりや商業、観光などの多様な産業が地域の魅力を高め、まちの魅力とものづくりなどの産業とが支え合うまちをつくります。

～第5回部会での議事より～

- ・ 大田区の中でどう働くか、社会に携わるのかということで、「『世界のものづくり都市、大田』を地域で支え、大田ブランドを広めます」という個別目標とした。
- ・ 「未来を育むまち」は主語を補うと、「大田区（住民と行政）は、繁栄する未来を築くため、その担い手となる人を積極的に育成し、それよりまちを豊かにする」。「イノベーションを産む産業」は「未来を育むまち」のための手段であり、一体のものである。
- ・ 大田ブランドという言葉は是非入れたい。
- ・ 「ものづくり」を「創造都市」など、未来に広がる言葉に代えられないか。